

# 奈良県農業研究開発センター育成のキク品種

奈良県のキク生産は、輪ギク(中大輪ギク、二輪ギク)を主とする葛城市周辺および下市町と、小ギクを主とする平群町が主産地となっている。平群町は、小ギクに特化した規模拡大が進み全国第2位の小ギク生産量、葛城市は、特産である二輪ギクの生産量では全国第1位となっている。

## 気象変動に左右されない安定した 開花特性を持つ小ギク

◆ 近年の温暖化傾向によって、出荷時期が不安定になっている8月の盆向け品種として、高温の年でも開花時期が変動しにくい新品種を育成。



図 「春日の紅」の開花日における年次間変動



8月咲き「春日の紅」



7月咲き「春日の鈴音」



8月咲き「春日Y2」  
【流通名: 春日の星】

2007年に交配、2008～2010年に、ハウス(高温区)と露地(慣行区)で同時期に開花する系統を選抜して育成、2011年に出願、2013年に品種登録

2010年に、中間母本を交配、2011～2015年に「春日の紅」と同様の選抜を行って育成、2016年に出願、2017年に品種登録

2012年に、中間母本を交配、2013～2017年に開花揃いや草姿のよい系統を選抜して育成、2018年に出願、2020年に品種登録

◆ 県外産と市場シェアを競う端境期(5～6月)の出荷向けとして、早期出荷ができ、春の低温期でも茎が良く伸びる特性をもつ新品種を育成。



6月咲き「春日W1」  
【流通名: 春日の泉】

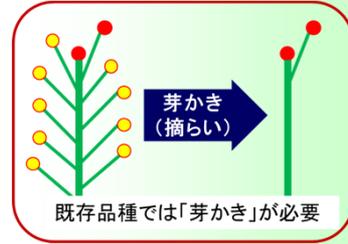


5月咲き「春日Y1」  
【流通名: 春日の光】

2011年に交配、2012年に日長の影響を受けない系統を選抜し、その中から2013～2017年に開花時期が早く、茎伸長性の良い系統を選抜、2018年10月に品種登録

## 芽かきの不要な 無側枝性二輪ギク

◆ 二輪ギクの生産に不可欠な芽かき作業を軽減するため、無側枝性(わき芽の出にくい性質)を導入した新品種を育成。盆・彼岸の繁忙期に重なる芽かき作業が大幅に省力化。



10月咲き「千都の舞」



10月咲き「千都の風」

2006～2007年にかけて、無側枝性を持つ八重の大輪ギクに県内在来の二輪ギク品種を2回交配、2008～2012年に適度の無側枝性と二輪ギクらしい段差を基準に選抜して育成、2013年に出願、2016年に品種登録



10月咲き「千都の絆」



10月咲き「千都の恋」

2011年に、無側枝性で中輪一重の中間母本系統に県内在来の二輪ギクを交配、2012～2015年に適度の無側枝性と二輪ギクらしい段差を基準に選抜して育成、2016年に出願、2017年に品種登録